

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 1170 号	氏名	唐澤 今人
論文審査担当者	主査 駒津 光久 副査 桑原 宏一郎・浅村 英樹		

(論文審査の結果の要旨)

歯科疾患、特に歯周病はその発症原因から生活習慣病の一つとして認識されているが、その予防を目的としている特定健診において歯科健診は現在実施されていない。WHO が提唱するコモンリスクファクターアプローチの観点からも、医科健診と歯科健診を併催することによる副次的効果は大きいと考えられる。今回、国保特定健診に歯科健診を試験的に導入し、その結果について横断的に解析を行った。対象は 2014 年に長野県塩尻市にて国保特定健診を受診した 30 歳以上の受診者 (2,716 名) のうち、歯科健診を希望し同意が得られた 985 名 (平均年齢 59.4 歳) を被験者とした。特定健診に導入した歯科健診は「標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル (2009 年)」に準拠し、歯式 (健全歯、未処置歯、処置歯、現在歯、要補綴、欠損補綴歯、補綴不要歯)、歯周組織の状態 (C P I T N)、口腔衛生状態、その他の所見 (楔状欠損、歯列・咬合不正、顎関節)、口腔乾燥度について調査を行った。統計解析では説明変数を性別、年齢、喫煙、飲酒、深夜の夜食、運動習慣、歯科検査項目では口腔衛生状態、C P I T N、歯周ポケットの深さ、現在歯数、要補綴歯数に設定、目的変数を M e t s の陽性項目数と各 M e t s 構成項要素の腹部肥満、高血圧、脂質異常、高血糖、腎機能障害の有無と設定し、単変量解析およびステップワイズ法を用いた順序ロジスティック回帰分析を用いて多変量解析を行った。

その結果、唐澤今人は次の結果を得た。

1. M e t s 危険因子間での相関係数解析により、年齢や喫煙が歯科疾患と M e t s の交絡因子であることが示唆された。
2. 多変量解析において M e t s 診断基準の該当項目数と歯科疾患との間に有意な関連は認められなかった。
3. M e t s の構成要素を個々でみると、特に腹部肥満、高血圧症と歯周病との間に有意な関連を認め、高血糖と歯周病との間に関連する傾向があることが示唆された。

これらの結果により歯科疾患 (特にう蝕や歯周病) は M e t s と同じリスクファクターと関連していることが示唆されたため、歯科疾患と M e t s は共同で評価されるべきある事が示された。

主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。